

## 資料 2-6 判断基準等一覧

### 1. 全学テーマ別評価

#### (1) 全学テーマ別評価「国際的な連携及び交流活動」

##### 【「自己評価実施要項」より抜粋】

##### 水準をわかりやすく示す記述法とその考え方

以下に示す水準の判断の考え方は、各大学等が水準等を判断する際の目安として示しているものです。したがって、自己評価を実施する際には、「国際連携活動」全体の目的及び目標に照らして、「活動の分類単位の自己評価」の結果を総体的に見た上で、評価項目ごとの水準を導き出すこととなりますので、留意してください。

##### 【「実施体制」及び「活動の内容及び方法」の評価項目】

水準をわかりやすく示す記述	考え方
目的及び目標の達成に十分に貢献している	観点ごとの評価において、全般的に優れており、目的及び目標の達成に十分貢献していると判断される場合
目的及び目標の達成におおむね貢献している	観点ごとの評価において、過半が優れており、かつ、問題がほとんどなく、目的及び目標の達成におおむね貢献していると判断される場合
目的及び目標の達成に相応に貢献している	観点ごとの評価において、一部に問題があるが、各活動の目標を達成する上で特に支障がなく、目的及び目標の達成に相応に貢献していると判断される場合
目的及び目標の達成にある程度貢献している	観点ごとの評価において、一部に重要な問題があるが、目的及び目標の達成にある程度貢献していると判断される場合
目的及び目標の達成にほとんど貢献していない	観点ごとの評価において、多くの問題があり、目的及び目標の達成にほとんど貢献していないと判断される場合

【「活動の実績及び効果」の評価項目】

水準をわかりやすく示す記述	考え方
目的及び目標で意図した活動の実績や効果が十分に挙げられている	観点ごとの評価において、全般的に優れており、目的及び目標で意図した活動の実績や効果が十分に挙げられていると判断される場合
目的及び目標で意図した活動の実績や効果がおおむね挙げられている	観点ごとの評価において、過半が優れており、かつ、問題がほとんどなく、目的及び目標で意図した活動の実績や効果がおおむね挙げられていると判断される場合
目的及び目標で意図した活動の実績や効果が相応に挙げられている	観点ごとの評価において、一部に問題があるが、各活動の目標を達成する上で特に支障がなく、目的及び目標で意図した活動の実績や効果が相応に挙げられていると判断される場合
目的及び目標で意図した活動の実績や効果がある程度挙げられている	観点ごとの評価において、一部に重要な問題があるが、目的及び目標で意図した活動の実績や効果がある程度挙げられていると判断される場合
目的及び目標で意図した活動の実績や効果がほとんど挙げていない	観点ごとの評価において、多くの問題があり、目的及び目標で意図した活動の実績や効果がほとんど挙げていないと判断される場合

【「平成14年度着手の大学評価の評価結果について」より抜粋】

観点ごとの判断：評価チームにおける書面調査，評価チーム主査会議，専門委員会の審議を経て，  
 観点ごとの判断の目安を以下の通りと定め，評価担当者の共通理解を図った。

【評価項目：実施体制，活動の内容及び方法の例】

観点ごとの判断	判断の目安
優れている	各着目点に関する状況の分析を通じて，対象機関の置かれている諸条件を勘案した上，目的及び目標を達成するために必要な取組が十分に行われている，または，期待される取組以上に優れた取組が行われていると認められる場合であって，改善すべき点が見いだせない場合，「優れている」と判断する
問題がある	各着目点に関する状況の分析を通じて，対象機関の置かれている諸条件を勘案した上，原則として1つでも目的及び目標を達成するために改善すべき点（軽微なものは除く）があると認められる場合，「問題がある」と判断する
相応である	各着目点に関する状況を通じて，対象機関の置かれている諸条件を勘案した上，目的及び目標を達成するために期待される取組をほぼ行っている状況であり，上記の2項目のいずれにも該当しない場合，「相応である」と判断する

評価項目ごとの水準の判断の目安：評価項目ごとの水準の判断は、機構の評価の目的、あるいは、評価対象である国際連携活動の性質上、個々の観点の寄せ集めによる平均値的な判断が必ずしも馴染むものではなく、さまざまな観点の相互作用を勘案しつつ、重要な活動の分類や観点到に重みを付けつつ、総合的に判断されるべきものである。しかし、それぞれの水準のレベルを共有化する一助として、以下に挙げるような「評価項目ごとの水準の判断の目安」を専門委員会において作成し、評価の担当者に周知することとした。この目安は、観点到ごとの判断の平均値的な目安となっているが、これはあくまで目安であって、観点到の重みや活動の分類の軽重など、基本的に、評価チームの判断が優先されることとした。なお、この目安によらない場合には、評価項目ごとの水準の判断の理由を、評価結果に併記した。

【実施体制・活動の内容及び方法の評価項目の例】

水準をわかりやすく示す記述	考え方	補足事項
目的及び目標の達成に十分貢献している	観点到ごとの評価において、一般的に優れており、目的及び目標の達成に十分貢献していると判断される場合	観点到ごとの判断で、原則として、8割以上の観点到において優れており、かつ、大学等において重要な位置付けにあると考えられる活動分類の観点到ごとの判断がいずれも優れており、他の活動分類においても、「問題がある」とされるものがほとんどない場合
目的及び目標の達成におおむね貢献している	観点到ごとの評価において、過半が優れており、かつ、問題がほとんどなく、目的及び目標の達成におおむね貢献していると判断される場合	観点到ごとの判断で、原則として、5割を超える観点到ごとの判断において優れており、かつ、大学において重要な位置付けにあると考えられる活動分類における観点到ごとの判断が5割を超えて優れており、「問題がある」とされる活動分類が1割程度以下の場合
目的及び目標の達成に相応に貢献している	観点到ごとの評価において、一部に問題があるが、各活動の目標を達成する上で特に支障がなく、目的及び目標の達成に相応に貢献していると判断される場合	他の水準のいずれにも属さない場合
目的及び目標の達成にある程度貢献している	観点到ごとの評価において、一部に重要な問題があるが、目的及び目標の達成にある程度貢献していると判断される場合	観点到ごとの判断で、原則として、「優れている」より「問題がある」が多く、かつ、「問題がある」が半数に満たない場合
目的及び目標の達成にほとんど貢献していない	観点到ごとの評価において、多くの問題があり、目的及び目標の達成にほとんど貢献していないと判断される場合	観点到ごとの判断で、原則として、すべての活動分類において、観点到ごとの判断の半数以上で「問題がある」とされる場合

なお、観点到ごとの判断の目安、及び、評価項目ごとの水準の判断の目安は、ヒアリングの確認事項を求めの際に同時に送付し、各対象機関の理解を求めている。

## 2. 分野別教育評価及び分野別研究評価

### (1) 平成13年度着手分 分野別教育評価「法学系」、「教育学系」

#### 【「平成13年度着手の大学評価の評価結果について」より抜粋】

#### 1.5. 評価の方法

各対象組織により、教育目的及び目標に沿って上記1.4に掲げる評価項目の要素ごとに独自に設定された観点に基づき、観点ごとに現在の教育活動の状況が、教育目的及び目標を実現する上で、「十分に成果を上げている」(教育学系の場合、「優れている」)のか、「おおむね成果を上げている」(教育学系の場合、「普通」)のか、「あまり成果を上げていない」(教育学系の場合、「問題がある」)のかを根拠となるデータ等で確認しつつ分析を行った。

次に観点ごとの分析結果を踏まえ、「要素ごとの貢献(達成又は機能)」の程度を、「十分に貢献(達成又は機能)している」、「おおむね貢献(達成又は機能)している」、「かなり貢献(達成又は機能)している」、「ある程度貢献(達成又は機能)している」、「ほとんど貢献(達成又は機能)していない」の5種類を用いて判断した。

次に、「要素ごとの貢献(達成又は機能)」の程度の判断結果と観点の重みなどを総合的に判断し、以下の判断の方法により5種類の「水準を分かりやすく示す記述」を用いて評価項目ごとの水準を示している。

水準を分かりやすく示す記述	「要素ごとの貢献(達成又は機能)」の程度の判断結果(目安)
十分貢献(達成又は機能)している	原則として、評価項目の要素の全てが「十分に貢献(達成又は機能)している」となっている場合
おおむね貢献(達成又は機能)しているが、改善の余地もある	原則として、観点の重みなどを考慮し、評価項目の要素が平均して「おおむね貢献(達成又は機能)している」となっている場合、又は、これに相当すると判断される場合
かなり貢献(達成又は機能)しているが、改善の必要がある	原則として、観点の重みなどを考慮し、評価項目の要素が平均して「かなり貢献(達成又は機能)している」となっている場合、又は、これに相当すると判断される場合
ある程度貢献(達成又は機能)しているが、改善の必要が相当にある	原則として、観点の重みなどを考慮し、評価項目の要素が平均して「ある程度貢献(達成又は機能)している」となっている場合、又は、これに相当すると判断される場合
貢献しておらず(達成又は整備が不十分であり)、大幅な改善の必要がある	原則として、評価項目の要素の全てが「ほとんど貢献(達成又は機能)していない」となっている場合

## (2) 平成 13 年度着手分 分野別教育評価「工学系」

### 【「平成 13 年度着手の大学評価の評価結果について」より抜粋】

#### 1.5. 評価の方法

各対象組織により、教育目的及び目標に沿って上記 1.4.に掲げる評価項目の要素ごとに独自に設定された観点に基づき、観点ごとに現在の教育活動の状況が、教育目的及び目標を実現する上で、「優れている」のか、「普通」なのか、「問題がある」のかを根拠となるデータ等で確認しつつ分析を行った。

次に、観点ごとの分析結果を踏まえ、以下の判断の方法により 5 種類の「要素ごとの貢献(達成又は機能)」の程度を判断した。

要素ごとの貢献(達成又は機能)の程度	観点ごとの分析結果(目安)
十分貢献(達成又は機能)している	原則として、重要な観点の分析の全てが「優れている」となっており、かつ、全観点の分析のほとんどが「優れている」となっている場合
おおむね貢献(達成又は機能)している	原則として、全観点の分析の半数以上が「優れている(「普通」のうち、貢献度が高いと認められるものを含む。)」となっている場合、又は、これに相当すると判断される場合
かなり貢献(達成又は機能)している	原則として、全観点の分析が、平均して「普通」となっている場合、又は、これに相当すると判断される場合
ある程度貢献(達成又は機能)している	原則として、全観点の分析の半数以上が「問題がある(「普通」のうち、貢献度が低いと認められるものを含む。)」となっている場合、又は、これに相当すると判断される場合
ほとんど貢献(達成又は機能)していない	原則として、重要な観点の分析の全てが「問題がある」となっており、かつ、全観点の分析のほとんどが「問題がある」となっている場合

#### 評価項目ごとの水準

(分野別教育評価「法学系」,「教育学系」と同様のため省略)

### (3) 平成13年度着手分 分野別研究評価「法学系」、「工学系」

#### 【「平成13年度着手の大学評価の評価結果について」より抜粋】

#### 1.5.評価の方法

各対象組織が、研究目的及び目標に即し上記1.4.に掲げる評価項目の要素ごとに設定した観点に基づき、現在の研究活動の状況が、研究目的及び目標を実現する上で、優れているのか、普通なのか、問題があるのかを、根拠となるデータ等で確認しつつ分析・調査した。なお「研究内容及び水準」、「研究の社会（社会・経済・文化）的効果」の評価項目については、対象領域ごとに組織した部会が個人別研究活動判定票に基づいて行った研究活動の内容及び水準の判定結果も用いて分析・調査した。

次に、観点ごとに分析・調査した結果に基づき、評価項目の要素ごとに研究目的及び目標の実現に向けた貢献（達成・改善）の程度等を次のように判断した。

要素ごとの「貢献の程度等」の判断の方法

要素ごとの貢献の程度等	観点ごとの評価（目安）
十分に貢献している	原則として、全観点の分析のほとんど全てが「優れている」となっている場合
おおむね貢献している	原則として、全観点の分析の半数以上が「優れている」（「普通」のもののうち、貢献度が高いと認められるものを含む。）となっている場合
かなり貢献している	原則として、全観点の分析が、平均して「普通」となっている場合
ある程度貢献している	原則として、全観点の分析の半数程度以上が「問題がある」（「普通」のもののうち、貢献度が低いと認められるものを含む。）となっている場合
ほとんど貢献していない	原則として、全観点の分析のほとんど全てが「問題がある」となっている場合

次に、要素ごとの貢献（達成又は機能）の程度等と観点の重みなどを総合的に判断し、次の「水準を分かりやすく示す記述」により、評価項目ごとの水準を示した。

評価項目ごとの「水準」の判断の方法

水準を分かりやすく示す記述	要素ごとの評価（目安）
目的及び目標の達成に十分貢献している	原則として、評価項目の要素の全てが「十分に貢献している」となっている場合
目的及び目標の達成におおむね貢献しているが、改善の余地もある	原則として、評価項目の要素が平均して「おおむね貢献している」となっている場合で、改善の必要が若干ある場合
目的及び目標の達成にかなり貢献しているが、改善の必要がある	原則として、評価項目の要素が平均して「かなり貢献している」となっている場合で、改善の必要がある場合
目的及び目標の達成にある程度貢献しているが、改善の必要が相当にある	原則として、評価項目の要素が平均して「ある程度貢献している」となっている場合で、改善の必要が相当にある場合
目的及び目標の達成に貢献しておらず、大幅な改善の必要がある	原則として、評価項目の要素の全てが「ほとんど貢献していない」となっている場合で、大幅な改善の必要がある場合

これらの水準は、各対象組織の有する目的及び目標に対するものであり、組織間の相対比較をするものではない。

## (4) 平成13年度着手分 分野別研究評価「教育学系」

### 【「平成13年度着手の大学評価の評価結果について」より抜粋】

#### 1.5. 評価の方法

各対象組織（機関）が、研究目的及び目標に即し上記1.4.に掲げる評価項目の要素ごとに設定した観点に基づき、現在の研究活動等の状況が、研究目的及び目標を実現する上で、優れているのか、普通なのか、問題があるのかを根拠となるデータ等で確認しつつ分析・調査した。なお、「研究内容及び水準」、「研究の社会(社会・経済・文化的効果)」の評価項目については、対象領域ごとに組織した部会が個人別研究活動判定票に基づいて行った研究活動の内容及び水準の判定結果も用いて分析・調査した。

次に、観点ごとに分析・調査した結果に基づき、評価項目の要素ごとに研究目的及び目標の実現に向けた貢献（達成・改善）の程度等を次のように判断した。

「要素」ごとの「貢献・達成・機能の程度」の判断方法

貢献・達成・機能の程度	観点ごとの評価（目安）
十分に～している	原則として、全観点の分析のほとんど全てが「優れている」となっている場合
おおむね～している	原則として、全観点の分析の半数以上が「優れている」（「普通」のうち、貢献度が高いと認められるものを含む）となっている場合
かなり～している	原則として、全観点の分析が、平均して「普通」となっている場合
ある程度～している	原則として、全観点の分析の半数程度以上が「問題がある」（「普通」のうち、貢献度が低いと認められるものを含む）となっている場合
ほとんど～していない	原則として、全観点の分析のほとんど全てが「問題がある」となっている場合

次に要素ごとの貢献・達成・機能の程度等と観点の重みなどを総合的に判断し、次の「水準を分かりやすく示す記述」により、評価項目ごとの水準を示した。

評価項目ごとの「水準」の判断方法

水準を分かりやすく示す記述	要素ごとの評価（目安）
十分に～している	原則として、評価項目の要素の全てが「十分に～している」となっている場合
おおむね～しているが、改善の余地もある	原則として、評価項目の要素が平均して「おおむね～している」となっている場合で、改善の必要が若干ある場合
かなり～しているが、改善の必要がある	原則として、評価項目の要素が平均して「かなり～している」となっている場合で、改善の必要がある場合
ある程度～しているが、改善の必要が相当にある	原則として、評価項目の要素が平均して「ある程度～している」となっている場合で、改善の必要が相当にある場合
不十分であり、大幅な改善の必要がある	原則として、評価項目の要素の全てが「ほとんど～していない」となっている場合で、大幅な改善の必要がある場合

これらの水準は、各対象組織(機関)の有する目的及び目標に対するものであり、組織(機関)間の相対比較をするものではない。

(5) 平成14年度着手分 分野別教育評価「人文学系」、「経済学系」、「農学系」

【「評価実施手引書」より抜粋】

評価項目の要素ごとの評価の観点例及び分析方法

(1)教育の実施体制

(学部，研究科共通)

【要素1】教育実施組織の整備に関する取組状況

〔観点例〕学科・専攻の構成

観点例 の分析方法

分析の区分	教育活動等の状況	根拠となるデータ等例
優れている	十分整備(工夫・努力)され，機能している	学科・専攻の専攻分野を教育研究するために必要な組織の整備状況，学科・専攻ごとの教育理念等の出版物，学生定員・現員など
相応である	相応に整備され，機能している	
問題がある	整備が不十分又は機能していない	

<分析の視点>

この観点では，学部(研究科)の教育目的及び目標を達成するために必要な学科・専攻が構成されているか，それぞれの専攻分野を教育研究するために必要な組織が整備され，また機能しているかなどについて分析する。

また，これらは，様々な制約の下で整備されていることを考慮し，その制約下での工夫や改善に向けての努力などについても十分配慮しながら分析する。

〔観点例〕教員組織の構成

(省略)

【要素2】教育目的及び目標の趣旨の周知及び公表に関する取組状況

〔観点例〕学生，教職員に対する周知方法とそれらの効果

〔観点例〕学外者に対する公表方法とそれらの効果

観点例 及び の分析方法

分析の区分	教育活動等の状況	根拠となるデータ等例
優れている	十分周知又は公表(多様な方法により実施)され効果が把握されている	刊行物，ホームページによる周知方法及び刊行物の活用状況(刊行物の配布先など)，ホームページなどの利用状況，目的・目標の記載された刊行物・ホームページの該当部分など
相応である	相応に周知又は公表され，効果が把握されている	
問題がある	周知又は公表が不十分	

<分析の視点>

これらの観点では，周知・公表の実施方法や実施状況，実施の効果の把握などについて分析する。例えば，ホームページ等で公表されている場合は，そのアクセス状況なども参考とする。

(以下省略)



## 【「自己評価実施要項」より抜粋】

### 評価項目ごとの水準等の判断方法

以下に示す水準等の判断方法は、各対象組織が水準等を判断する際の目安として示しているものです。したがって、自己評価を実施する際には、各対象組織が教育目的及び目標に沿って設定した評価の観点の重みなどを総合的に判断し、評価項目ごとの水準を導き出すこととなりますので、留意してください。

#### 要素ごとの貢献の程度等の判断方法

要素ごとの貢献（達成・機能）の程度の区分	観点ごとの自己評価の分析結果(目安)
十分に貢献（達成・機能）している	原則として、観点の分析の全てが「優れている」となっており、目的及び目標の達成に十分貢献している（目的及び目標において意図する教育の成果が十分達成されている・向上及び改善のためのシステムが十分機能している）と判断される場合
おおむね貢献（達成・機能）している	原則として、観点の分析の半数以上が「優れている」となっており、目的及び目標の達成におおむね貢献している（目的及び目標において意図する教育の成果がおおむね達成されている・向上及び改善のためのシステムがおおむね機能している）と判断される場合
相応に貢献（達成・機能）している	原則として、観点の分析が総じて「相応である」となっており、目的及び目標の達成に相応に貢献している（目的及び目標において意図する教育の成果が相応に達成されている・向上及び改善のためのシステムが相応に機能している）と判断される場合
ある程度貢献（達成・機能）している	原則として、観点の分析の半数以上が「問題がある」となっているが、目的及び目標の達成にある程度貢献している（目的及び目標において意図する教育の成果がある程度達成されている・向上及び改善のためのシステムがある程度機能している）と判断される場合
ほとんど貢献（達成・機能）していない	原則として、観点の分析の全てが「問題がある」となっており、目的及び目標の達成にほとんど貢献していない（目的及び目標において意図する教育の成果がほとんど達成されていない・向上及び改善のためのシステムがほとんど機能していない）と判断される場合

評価項目ごとの水準の判断方法

「教育の実施体制」の例

水準を分かりやすく示す記述	要素ごとの貢献の程度の判断結果（目安）
教育目的及び目標の達成に十分貢献している	原則として、要素の全てが「十分貢献している」となっており、目的及び目標の達成に十分貢献していると判断される場合
教育目的及び目標の達成におおむね貢献している	原則として、要素の半数以上が「十分貢献している」又は「おおむね貢献している」となっており、目的及び目標の達成におおむね貢献していると判断される場合
教育目的及び目標の達成に相応に貢献している	原則として、要素が総じて「相応に貢献している」となっており、目的及び目標の達成に相応に貢献していると判断される場合
教育目的及び目標の達成にある程度貢献している	原則として、要素の半数以上が「ある程度貢献している」又は「ほとんど貢献していない」となっており、目的及び目標の達成にある程度貢献していると判断される場合
教育目的及び目標の達成にほとんど貢献していない	原則として、要素の全てが「ほとんど貢献していない」となっており、目的及び目標の達成にほとんど貢献していないと判断される場合

評価項目によって、「水準を分かりやすく示す記述」の表現が異なっていますので、判断に当たっては、別紙4の各項目の記述を参照してください。

（6）平成14年度着手分 分野別研究評価「人文学系」、「経済学系」、「農学系」

【「評価実施手引書」より抜粋】

観点ごとの判断の考え方

観点ごとの分析の区分	分析の状況
優れている	根拠となるデータ等から客観的に見て、目的及び目標の達成のために、十分に（多様な）体制が整備／取組が実施／配慮／機能が整備等されている。又は、目的及び目標の達成に対する高い実績や効果が確認できる
相応である	根拠となるデータ等から客観的に見て、目的及び目標の達成のために、体制の整備／取組の実施／配慮等が相応になされている。又は、目的及び目標の達成に対する相応の実績や効果が確認できる
問題がある	根拠となるデータ等から客観的に見て、目的及び目標の達成のための体制の整備／取組の実施／配慮等が不十分又はなされていない。又は、目的及び目標の達成に対する実績や効果が不十分又は確認できない

## 【「自己評価実施要項」より抜粋】

### 評価項目ごとの水準等の判断方法

以下に示す水準等の判断方法は、各対象組織が水準等を判断する際の目安として示しているものです。したがって、自己評価を実施する際には、各対象組織が研究目的及び目標に沿って設定した観点の重みなどを総合的に判断し、評価項目ごとの水準を導き出してください。

#### 要素ごとの貢献の程度等の判断方法

要素ごとの貢献(達成・機能)の程度の区分	観点ごとの分析の状況(目安)
十分に貢献(達成・機能)している	原則として、観点の分析の全てが「優れている」となっており、目的及び目標の達成に十分貢献している(目的及び目標の意図が十分達成されている・向上及び改善のためのシステムが十分機能している)と判断される場合
おおむね貢献(達成・機能)している	原則として、観点の分析の半数以上が「優れている」となっており、目的及び目標の達成におおむね貢献している(目的及び目標の意図がおおむね達成されている・向上及び改善のためのシステムがおおむね機能している)と判断される場合
相応に貢献(達成・機能)している	原則として、観点の分析が、総じて「相応」となっており、目的及び目標の達成に相応に貢献している(目的及び目標の意図が相応に達成されている・向上及び改善のためのシステムが相応に機能している)と判断される場合
ある程度貢献(達成・機能)している	原則として、観点の分析の半数以上が「問題がある」となっているが、目的及び目標の達成にある程度貢献している(目的及び目標の意図がある程度達成されている・向上及び改善のためのシステムがある程度機能している)と判断される場合
ほとんど貢献(達成・機能)していない	原則として、観点の分析の全てが「問題がある」となっており、目的及び目標の達成にほとんど貢献していない(目的及び目標の意図がほとんど達成されていない・向上及び改善のためのシステムがほとんど機能していない)と判断される場合

評価項目ごとの水準の判断方法

水準を分かりやすく示す記述の区分	要素ごとの貢献の程度等の判断の状況（目安）
十分に貢献(達成・機能)している	原則として、評価項目の要素の全てが「十分に貢献（達成・機能）している」となっており、目的及び目標の達成に十分貢献している（目的及び目標の意図が十分達成されている・向上及び改善のためのシステムが十分機能している）と判断される場合
おおむね貢献(達成・機能)している	原則として、評価項目の要素の半数以上が「十分に貢献（達成・機能）している」又は「おおむね貢献（達成・機能）している」となっており、目的及び目標の達成におおむね貢献している（目的及び目標の意図がおおむね達成されている・向上及び改善のためのシステムがおおむね機能している）と判断される場合
相応に貢献(達成・機能)している	原則として、評価項目の要素が総じて「相応に貢献（達成・機能）している」となっており、目的及び目標の達成に相応に貢献している（目的及び目標の意図が相応に達成されている・向上及び改善のためのシステムが相応に機能している）と判断される場合
ある程度貢献(達成・機能)している	原則として、評価項目の要素の半数以上が「ある程度貢献（達成・機能）している」又は「ほとんど貢献（達成・機能）していない」となっているが、目的及び目標の達成にある程度貢献している（目的及び目標の意図がある程度達成されている・向上及び改善のためのシステムがある程度機能している）と判断される場合
ほとんど貢献(達成・機能)していない	原則として、評価項目の要素の全てが「ほとんど貢献（達成・機能）していない」となっており、目的及び目標の達成にほとんど貢献していない（目的及び目標の意図がほとんど達成されていない・向上及び改善のためのシステムがほとんど機能していない）と判断される場合

（ 7 ）平成 14 年度着手分 分野別教育・研究評価「総合科学」

【「評価実施手引書」より抜粋】

観点ごとの判断

分析の区分	教育研究活動等の状況
優れている	取組（整備，配慮など）が，十分なされ貢献（機能）又は十分達成している
相応である	取組（整備，配慮など）が，相応になされ貢献（機能）又は相応に達成している
問題がある	取組（整備，配慮など）が，不十分又は達成されていない

要素ごとの貢献の程度等の判断方法

（平成 14 年度着手分 分野別教育評価及び分野別研究評価のそれぞれと同様のため省略）

評価項目ごとの水準の判断方法

（平成 14 年度着手分 分野別教育評価及び分野別研究評価のそれぞれと同様のため省略）